

# 牛ウイルス性下痢・粘膜病の防疫対策（イメージ）

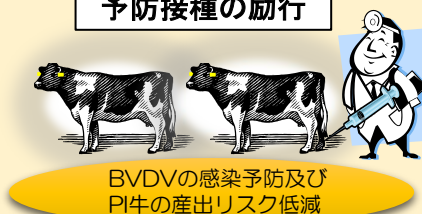
（参考1）

## 地域一体となった対策の推進

### 飼養衛生管理基準の遵守



### 予防接種の励行



## スクリーニング検査

- バルク乳検査
- スポットテスト 等

## 病性鑑定等による摘発



【PI牛】

自主的  
とう汰

陰性

陽性

## 清浄性維持・確認のための検査

- バルク乳検査（乳用牛）
- スポットテスト（主に肉用牛）
- 導入牛検査（妊娠牛の場合、分娩子牛の検査を含む。） 等

## 全頭抗原検査

（RT-PCR、ウイルス分離又は抗原検出ELISA）

\* 陽性牛については、少なくとも3週間の間隔をあけて2回目の抗原検査を実施

陰性

1 回だけ陽性  
→PI牛存在せず  
（一過性感染）

2 回とも陽性  
→【PI牛の摘発】  
（※）

自主的  
とう汰

当該農場の  
新生子牛の抗原検査

原則として、PI牛の自主的とう汰以降  
10か月間に産まれた新生子牛が対象

陰性

2 回とも陽性  
→【PI牛の摘発】  
（※）

自主的  
とう汰

当該農場の  
新生子牛の抗原検査

自主的  
とう汰

## 清浄性維持・確認のための検査

- バルク乳検査（乳用牛）
- スポットテスト（主に肉用牛）
- 導入牛検査（妊娠牛の場合、分娩子牛の検査を含む。） 等

陰性

2 回とも陽性  
→【PI牛の摘発】  
（※）

※ 2回の抗原検査（RT-PCR、ウイルス分離又は抗原検出ELISA）を実施し、判定する。